

「フィレモン書」

2019年05月14日

フィレモンへの手紙 1節～7節 キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者フィレモン、姉妹アフィア、わたしたちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

わたしは、祈りの度に、あなたのことを思い起こして、いつもわたしの神に感謝しています。というのは、主イエスに対するあなたの信仰と、聖なる者たち一同に対するあなたの愛とについて聞いているからです。わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています。兄弟よ、わたしはあなたの愛から大きな喜びと慰めを得ました。聖なる者たちの心があなたのお陰で元気づけられたからです。

フィレモン書の差出人は「キリスト・イエスの囚人パウロとテモテから」と、二人の名前が書かれているが、パウロが一人で書いた手紙である。宛先は「わたしたちの愛する協力者フィレモン、姉妹アフィア、わたしの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ」と書かれているが、フィレモン個人に宛てて書き送った手紙である。姉妹アフィアはフィレモンの妻で、戦友アルキポはフィレモン、アフィア夫婦の息子であろう。手紙の内容は、フィレモンの奴隷であったオネシモが逃亡し、パウロの所に逃れて来たが、オネシモをフィレモンの所に送り帰すために、オネシモを執り成した愛に満ちた手紙である。逃亡奴隷オネシモに関わるフィレモンに宛てた極めて個人的な手紙であるが、差出人にテモテを加え、受取人としてアフィア、アルキポ、更に、フィレモンが開いていた家の教会も付け加えている。オネシモを送り帰すことはパウロとフィレモンの間の個人的な関わりでなく、皆に関わりがあることとして、あえて、これらの名前と教会を書いたのであろう。多くの人に、オネシモのことをよろしくという願いをもって書いた、牧会者パウロの深い配慮が表れている挨拶である。祝福の言葉は、例によって、「わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように」である。

パウロはこの時、エフェソで投獄されていた。この投獄は、犯罪に対する判決に基づく刑罰を受けてのものではなく、イエス・キリストを宣教したことに詮議を立てられ、その判決を待つ間、監禁されていたもので、訪問者たちと面会でき、かなりの自由が認められていた。フィレモンは恐らく、コロサイに在住し、パウロの導きによって信仰を持った人と想像され、パウロとは親しい関係にあった。オネシモは奴隷生活の苦境に耐え兼ね、逃亡し、監禁中のパウロと出会い、パウロを通してキリスト者になったようである。

パウロはまず、フィレモンを私たちの愛する協力者と呼びかけている。「わたしは、祈りの度に、あなたのことを思い起こして、いつもわたしの神に感謝しています」と書いている。その理由は、「主イエスに対するあなたの信仰と、聖なる者たち一同に対するあなたの愛とについて聞いているからです」と言う。そして、私たちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈り求めている。「わたしはあなたの愛から大きな喜びと慰めを得ました。聖なる者たちの心があなたのお陰で元気づけられたからです」と、フィレモンの愛が周りのキリスト者たちを元気づけていると聞き、大きな喜びと慰めを得ていると書いている。